

第5章 推進体制

関係者と役割

(1) 漁協・連合会

魅力ある本県漁場の創出に向け、活動の理解促進を図るとともに、新たな担い手の確保・育成や漁協間の連携に取り組み、組織強化に努める。また、先端技術の導入等により漁協活動の効率化を図り、人口減少社会にあっても、地域社会での存在感を発揮し、活力あるとちぎの河川湖沼漁場づくりを推進していく。

(2) 養殖生産者

安全・安心を確保しながら、本県オリジナルのブランド魚等の生産販売に取り組む。生産については、自然環境との調和と効率性を兼ね備えた技術の導入を積極的に進め、地域社会と密着した、持続的で利益率が高い魅力ある養殖業を展開していく。

(3) 遊漁者

1 栃木県漁業調整規則や遊漁規則などのルールやマナーを遵守し、多くの方が気持ちよく過ごすことのできる漁場づくりに取り組む。また、生物多様性や生態系の保全への理解を深め、未来に資源をつなげる漁場利用に努める。

(4) 県

・農村振興課等

国・市町・内水面漁場管理委員会、漁協、連合会及び養殖生産者等関係機関と連携し、水産に関する情報の収集、発信や水産振興施策の企画と実行を通して、県内各地域の特性を生かし「とちぎの水産」を振興していく。

・水産試験場

水産振興に向けた各種施策を技術的に支えるため、生産性を向上させる新たな養殖技術の開発、水産資源の持続的な活用に向けた温暖化への適応技術の開発及び自然との共生に向けた魚類の生息環境改善技術の確立に関する試験研究を推進する。

【栃木県農業試験研究推進計画抜粋（2026～2030）】

水産試験場の主な試験研究課題

1 生産性向上

- 生産性を向上させる新たな養殖技術の開発

- ・スマート技術を活用した養殖生産システムの開発
- ・養殖生産安定化に向けた魚病対策技術の確立

2 気候変動への対応

- 水産資源の持続的な活用に向けた温暖化への適応技術の開発
 - ・河川水温の将来予測に基づく漁場管理モデルの構築
 - ・天然資源を生かした水産資源の増殖手法の開発
 - ・マス類養殖における高水温対策技術の開発

3 環境との調和

- 自然との共生に向けた魚類の生息環境改善技術の確立
 - ・水産資源の生産力向上につながる漁場環境改善技術の確立
 - ・タナゴ類の産卵環境改善技術の確立
 - ・カワウや外来魚から水産資源を守る技術の確立

・内水面漁場管理委員会

水産資源を持続的に利用できるよう専門的立場から助言するとともに、知事からの諮問事項について審議・答申を行い、適切な漁場管理や増殖計画の推進に寄与する。また、外来魚対策や資源保護措置の検討等を通じて、漁協や遊漁者間の調整に努める。